肉用牛

「巣ごもり」需要で価格堅調
コロナの動向を注視



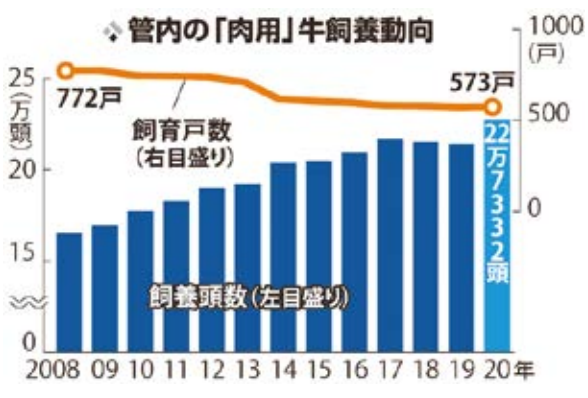
価格が堅調に推移している和牛の素牛(11月、音更町)

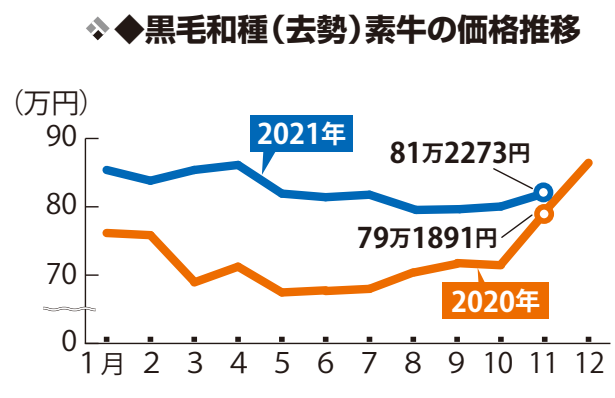
十勝和牛を始め、各地域や団体、農家でブランド化の取り組みが進められている管内の肉用牛。新型コロナウイルス感染拡大による価格の下落が顕著だった昨年と比較し、今年は家庭内消費が高水準で維持されており、価格は堅調に推移する。ただコロナウイルス感染の状況によっては価格動向が不透明な面もあり、関係者は今後の値動きを注視している。

ホクレン十勝地区家畜市場(音更町)の1月の初競りは、黒毛和種の素牛(子牛)の去勢牛で平均86万円台を記録。コロナ感染拡大前で高値水準にあった前年同月を9万円ほど上回った。今年はその後も85万円前後をキープ、夏場は一時期80万円を割ったが、11月は再び81万円台に戻し堅調な数字となっている。内臓などを取り除いた「枝肉価格」が好調で、素牛価格にも反映されている。

昨年は3月ごろからコロナの影響で、高級和牛を食べる中国人など訪日外国人旅行者(インバウンド)が減少。市場で取引される和牛は道外の外食レストランや焼き肉店でも使用されており、価格が大きく下落した。その後、国が和牛の消費拡大に向けたネット販売の支援を行ったほか、家庭での「巣ごもり需要」もあり、ギフトや鍋需要が大きい冬場にかけて消費が増加。価格も以後、高い水準を維持している。

十勝農協連の調査によると、管内の肉用牛の飼育戸数(2020年)は前年から2戸増え573戸、頭数は6%増の22万7332頭で増加傾向が続く。今年4月には十勝和牛育種組合が発足、27年の「全国和牛能力共進会」の北海道開催も見据えた十勝産種雄牛の造成の取り組みなど、業界発展に向けた新たな動きもみられる。





小麦
赤かび病防除と
かび毒(DON)
汚染低減に
かび毒(DON)汚染低減に
トップジンM水和剤
ベフラン・トップジンMの混合剤
ベフトップジンフロアブル
無人航空機による散布
トップジンMゾル
優れた予防・保護効果
葉枯症に
ベフラン液剤25
●ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
日本曹達株式会社 札幌営業所 〒060−0001 札幌市中央区北一条西4−1−2 TEL.(011)241−5581